

時を織る建築

建築は、単なる空間の創造ではなく、
時間を織り込む行為でもある。

駿府城の歴史と周辺環境を読み解き、
それらを建築のかたちとして表現することで、
新たな時の流れを生み出すことを目指す。

1 歴史の重なりを屋根や空間構成で表現

材料の選択

屋根デザイン

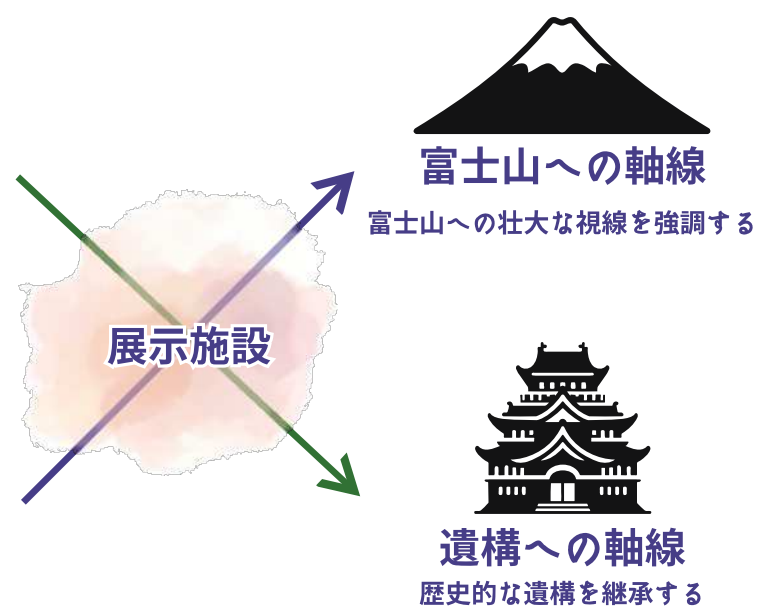


都市構成の空間

駿府城の変遷を辿ると、今川氏の時代から現代に至るまで、幾重にも歴史が折り重なってきたことがわかる。この積層する時間の流れを、複層的な屋根デザインや空間の構成に反映させる。さらに、駿府城周辺の都市の特性である基盤の目状の空間構成とする。過去と現在を織り交ぜる空間を創出する。



2 直交する軸線を意識した建物配置



駿府城周辺は、富士山へと向かう壮大な視線の軸と、駿府城の遺構を継承する歴史的な軸が存在する。この二つの軸線を意識しながら建物を配置し、自然と歴史が交錯する場を生み出す。富士山への軸を強調するテラスや、遺構を感じさせる配置計画を通じて、地域の文脈に呼応した建築を構想する。

3 地域資源を活かし、変化する建築



時とともに成熟する建築へ

静岡県の木材や石材を積極的に取り入れ、地域の環境との調和を図る。静岡市内産木材を中心に天竜杉など県産材により、地域のアイデンティティを体现する建築を目指す。また、芝屋根を採用することで四季の移ろいを建築に取り込み、壁には漆喰仕上げや板材などの風合いを増す素材を用いることで、時とともに成熟する建築の姿を表現する。



配置図兼平面図 S=1/300